

07

先生は高校生。教えるほうも、教えられるほうもともに成長できる食の体験を提供

北海道中標津農業高等学校

中標津農業高等学校では、生徒が指導役となり農業体験を実施するというユニークな取組を行っています。対象は主に地元の幼稚園から中学校まで。教える立場に身を置くことで、日ごろの授業で培った知識や技術を再確認し学習をより深めることができ、また世代の違う子どもたちとの交流は、内面的な成長にもつながっています。

さらに地域の子どもたちに対しては、町の基幹産業である農業を体験的・複合的に学習してもらうことで、食やいのちに対する理解を促す役割を担っています。



問い合わせ窓口

担当者 仲本大輔・久井野の子
 住所 標津郡中標津町計根南2条西1丁目1
 URL <http://www1.nakashibetsu.jp/nagri/>
 連絡先 電話：0153-78-2053
 E-mail nagri-gyomu@ed.nakashibetsu.jp

※主に中標津地域の幼稚園・小学校・中学校などが対象

- 受入可能人数 約20名(内容に応じて要相談)
- 受入時期 通年。ただし畑作体験は4～10月ごろ
- 所要時間 約2時間
- 体験料 なし(加工体験は材料費の負担あり)

※毎年3月下旬に体験希望校と年間計画の打合せを実施

活動内容

- 畑作・野菜……じゃがいもの植付け・収穫、野菜の播種・管理作業・収穫・調理
- 酪農………牛舎見学・搾乳・ブラッシング体験など
- その他………アイスクリーム作り、食肉が家庭に届くまでの講義とソーセージ作りなどの加工体験、花の寄せ植え体験

※小学校対象の場合、「食育学校」の入学から卒業までの授業(年5～6回)として実施。

* 農業体験モデル例 *

小学校4年生
 「計根別食育学校 卒業式」
 (乳加工・酪農体験)

- 実施日 2011年11月28日(月)
- 体験参加者 生徒18名、教員2名
- 実施時間 10:30～12:00
- 受入れ担当者 本校生徒20名、本校教員5名

事前に行うこと

■ 日程確認、役割分担、簡単なリハーサル(司会進行)など

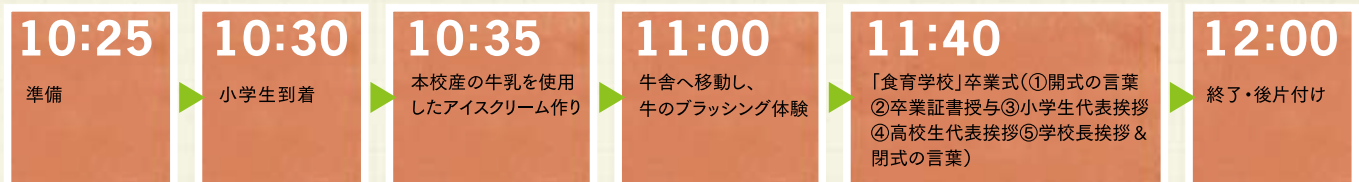
受入れ側で用意するもの

酪農体験のブラシ、加工体験の原材料や製造用具など一式、食育学校卒業証書、カメラ

体験者が用意するもの

汚れてもいい服装、軍手、長靴、エプロン、三角巾、筆記用具

実施内容



point!

高校生のお兄さん・お姉さんが楽しく指導

参加する子ども3人に指導役の高校生が1人、もしくはマンツーマンの場合もあります。コミュニケーションが取りやすく、年齢も近いため信頼関係を築きやすいと言えます。高校生ならではの優しく楽しい指導の仕方、子どもたちが心から楽しめる体験を行うことができています。

「食育学校」の指導役となった高校生の感想

● 農業体験の実施を通して、自分たち自身が食について改めて考える機会になりました。

- 異世代との交流が楽しい。自分たちとは違う反応が返ってくるのが新鮮です。
- 小学生が、自分の育てた野菜が大きくなったのを見て感動していたり、嫌いだっ野菜を食べてみるのを見て、農業体験の効果があったと感じられました。

教員養成の一環として、学生、教員が「食育講座」などを実施する

国立大学法人北海道教育大学

北海道教育大学では、実践的指導力をもつ教師を養成するための取組の一つとして、学生による子ども向けの食育講座や、教員による講演等を実施しています。

市町村等からの要望を大学窓口が受け付け、調整を図り、希望する内容に該当する教員等を紹介します。



問い合わせ窓口

担当者 総務部総務課広報・地域連携グループ
 住所 札幌市北区あいの里5条3丁目1番3号
 URL <http://www.hokkyodai.ac.jp/>
 連絡先 電話：011-778-0210 FAX:011-778-0631
 E-mail koho@j.hokkyodai.ac.jp

活動内容

- 食育に関する講座(市町村の要請により実施)
- 農業体験のサポート(農業体験実施の際、農業者のサポートなど)

* 実施例 *

美唄市内小学生
キッズアスリート
スクールでの
食育出前講座

- 実施日 2012年1月21日(土)
- 出前講座参加者 児童50名
- 実施時間 10:40~11:40
- 担当者 札幌校総合学習開発専攻生活・食育グループ2年生 6名

事前に行うこと

- 日程・人数確認、企画、講座の準備など

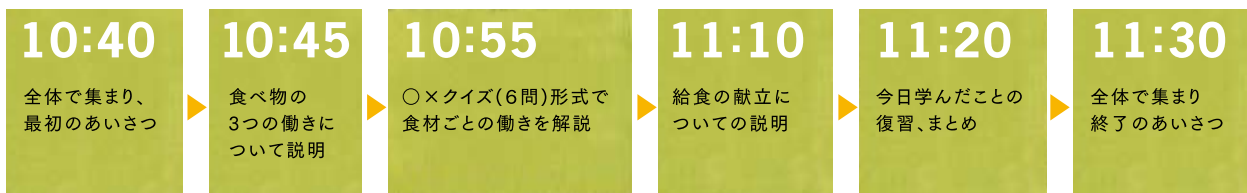
大学側で用意するもの

ポスター、画用紙で作った食材

参加者が用意するもの

特になし

実施内容 「食のバランス」について学ぼう



point!

児童をあきさせない工夫

参加する児童が退屈しないよう、講座の中で体を動かす○×ゲームを行いました。「食育」に関心をもちきっかけづくりにもなりました。

「食育講座」の指導役となった大学生の感想

今回私たちは、「バランスよく食事すること」について食育講座を行わせていただきました。以前、浜頓別町で食育講座を行ったときの反省を生かし、参加してくれる子どもたちが最後まで飽きずに、楽しんで学んでくれるような講座ができるよう準備しました。美唄市の子どもたちは、まっすぐな目で私たちのことを見て話を聞き、質問すると元気に答えてくれて、私たちの緊張も徐々にほぐれていきました。「給食はきちんと残さず食べていますか?」という質問に、半数くらいの子どもは「おいしくないから、嫌いなものがあるから残す」と答えていました。でも私たちの話

を聞き、「ちゃんと嫌いなものも食べるね!」とってくれたことで、今回の食育講座の目的を果たすことができたと感じました。私たちは「子どもたちに何かを教える」ということを学んでいる最中で、それは私たちにとって簡単なことではありません。今回私たちは、授業を作ること、授業をすることの難しさを再確認しました。でも、「好き嫌いなんで食べる」と言ってくれたこと、そして何より子どもたちの笑顔を見ることができて、大きな達成感が得られました。すごく良い機会を与えていただいたことに感謝して、これからも学び続けていきたいと思います。